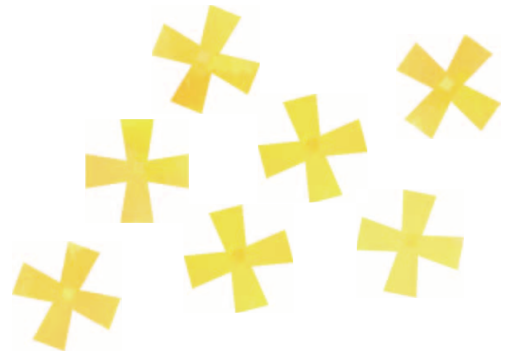


菜の花

NHO IBUSUKI MEDICAL CENTER



No. 54
令和5年1月



当院のロゴマークは、指宿市が誇る「菜の花」をモチーフにしています。



たくさんの黄色い円は花の部分を表しており、菜の花は小さな花が集まって1つの花を形成しているというように、病院のスタッフ1人ひとりが集まって、病院という組織があるのだということを表現しています。

緑の弧は菜の花の葉と、病院（花の部分）には新しい風が常に舞い込み、また病院が地域に新しい風を送り出しているという「風」のイメージを示しています。

contents

- P.2 “オーラルフレイル対策 - 医科歯科連携 - ”
- P.3 鹿児島県歯科保健文化賞を受賞しました
- P.3-5 第8回指宿医療センター市民公開講座
- P.6 小児外科について
- P.7-8 第76回国立病院総合医学会が開催されました
- P.9 指宿 菜の花通信
- P.10 外来診療担当医一覧

理念

患者さまにやさしく、

地域に信頼される

良質な医療の提供をめざします。

運営方針

- 1 がん診療の治療の向上をめざします。
- 2 成育医療の充実をめざします。
- 3 救急医療の充実をめざします。
- 4 地域医療機関との連携を図り、説明と同意に基づいた安全で質の高い医療をめざします。



”
オーラルフレイル対策
― 医科歯科連携 ―
“



院長
鹿島 克郎

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

今年も指宿医療センターが地域中核病院として役割を果たすよう精進いたしますので、ご支援とご協力を宜しくお願い致します。

平成 27 年 10 月から指宿市歯科医師会の先生方と医科歯科連携を始めて今年で 8 年目を迎えます。新型コロナ感染症の影響で口腔ケアラウンドは中断していますが、訪問歯科診療と 2 か月毎の連携協議会は継続して頂いています。口腔ケアチェック票に口腔内写真を取り込み歯科医師の指導を受ける段階までできましたが、全ての医療スタッフへ認知させるにはまだ時間が必要です。

この指宿歯科医師会との医科歯科連携を鹿児島県歯科医師会に評価して頂き、昨年 11 月、指宿医療センターが鹿児島県歯科保健文化賞を受賞いたしました。歯科保健の重要性を医師・歯科医師・看護師だけでなく多職種で認識し、口腔ケアに対する意識改革が行われたとしてご評価頂きました。

また、昨年 11 月 23 日に開催した第 8 回、指宿医療センター市民公開講座は、“口から始める健康への第一歩”をテーマとし、187 名の方々にご参加頂きました。公開講座では、まず、平田晃士先生に“健口で伸ばそう健康寿命”とのタイトルで特別講演をして頂きました。平田先生は歯周病に対する歯科治療の重要性に加えて口腔機能低下症（オーラルフレイル）について楽しい動画をまじえてわかりやすくお話ししてくださいました。

その後、3 名の当院職員がそれぞれの立場でミニ講演をしました。言語聴覚士の百武理子さんは“おいしく食べ続けよう！自宅でできる簡単トレーニング”と題して実演を交えて具体的な方法を説明し、管理栄養士の安藤より子さんは“スムーズな嚥下と栄養アップのためのひと工夫”について食べやすい調理の工夫やレシピを紹介しました。看護師長の國生道代さんは“家族の『食べたい!』を支えよう”と題して口から食べることの重要性を脳科学的知見から説明し、食事介助に重要な知識や適切な姿勢とスプーンなどを紹介し、“口から食べる幸せ”について本人の思いを家族と医療者とで共有する大切さを伝えました。今回の公開講座で健康寿命の延伸にオーラルフレイル対策が重要であることを再認識いたしました。

今回の広報誌の表紙は昨年から始めた菜の花、ひまわり、コスモスプロジェクトの写真です。季節の移ろいが病棟からもみてとれて癒されます。今年も続けたいと思います。



鹿児島県歯科保健文化賞を受賞しました



庶務係長 前田 曜佑

令和4年11月5日に鹿児島県歯科医師会会館にて鹿児島県歯科医師会記念式典が開催され、当院は第12回（令和4年度）鹿児島県歯科保健文化賞を受賞しました。

この賞は鹿児島県内において、地域住民の歯科保健衛生の向上及び推進に優れた業績のあった鹿児島県歯科医師会会員以外の個人及び団体を対象としたものです。

今回の受賞理由は、「医科歯科連携協議会を7年間継続することで、医師、歯科医師、看護師だけでなく多職種を含めた歯科保健の重要性を共通認識することが可能となり、病診連携・多職種連携の対応の拡充となった。また、口腔衛生等に係る様々な研修会を共同開催することで、口腔ケアに対する知識向上及び意識改革が十分に行われた。」と伺っております。

今回表彰されたことで、これまでの取り組みに対する達成感が得られ、スタッフ一人一人の自信にもつながりました。今後も指宿市歯科医師会との連携を継続し、医療の質の向上に努めていきたいと思っております。



第8回指宿医療センター市民公開講座

令和4年11月23日（水）、指宿市民会館 大ホールにおきまして、第8回指宿医療センター市民公開講座「口から始める健康への第一歩 ～正しい知識で大切な家族と幸せに食べ続けよう～」が開催されました。

当日は187名の市民の皆様にご来場いただきました。

講演 「健口で伸ばそう健康寿命」

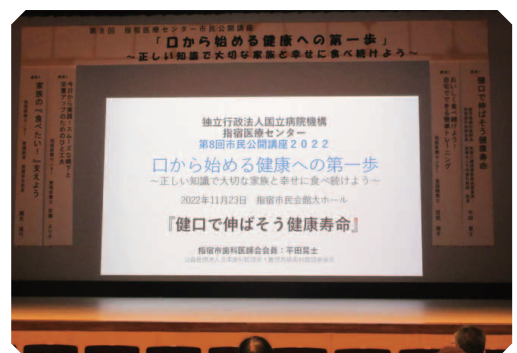
1

講師：指宿歯科医師会 会員 医療法人平田歯科医院 院長 平田 晃士



ほぼ全ての全身麻酔下手術で、口腔管理をしっかり行う事で、在院日数・医療費も減る事等はお周知の通りです。2016年のデータでは、健康寿命と平均寿命の差が男性約8.8歳・女性12.3歳です。そこで『口から始める健康への第一歩』のメインテーマに、演題を『健口でのばそう健康寿命』とし、①県民アンケート（県民の歯科口腔保健実態調査（成人期・高齢期））から歯にまつわるスローガンの話。②11月歯科（医療）に関わる〇〇の話。③オーラルフレイルの話。④口腔機能低下症・健口の話。⑤VTR。の流れでお話させていただきました。

①・咬む力につながる「8020運動」・食育、8020につながる「噛みんぐ30（サンマル）運動」・「オーラルフレイル」について。②・11月8日（いいはの日）・11月は口腔がん撲滅月間15日（口腔がん撲滅の日）、早期発見が治癒につながります。11日介



護の日・14日医師の日、歯周病と深い関わりがある世界糖尿病デー・25日(いい医療に向かってGo)を含む1週間を医療安全週間としていることなど。③オーラルフレイルとは：健康と介護の間にある「フレイル」がはじまる初期サインとして、噛みにくい、飲み込みづらい、滑舌が悪くなったなど、口の(ささいな)衰えのことで、**正しく介入すれば戻る(可逆的である)**こと。咬む力には歯が必要であることから、むし歯・歯周病の話。④口の中(舌)の汚れ、乾き、咬む力、舌や唇を動かす力(パ・タ・カ)、舌で押す力(舌圧)、かみ砕く働き、のみ込む働き等の検査について。⑤・有森裕子さんによるグーパーぐるぐるゴックンベ〜、無意味音のこと・ブクブク、ガラガラしっかり嗽・大阪府歯科医師会当日限定許可；ミルクボーイの「生きる力を支える歯科」をご覧ください。

講演が、毎日の口腔ケア・オーラルフレイル予防!かかりつけ歯科医院で、プロフェッショナルケア、口腔・口腔機能管理を行う事で「健口」を通じ美味しく食べ「健康寿命をのばす」一助になればと思います。

講演 「おいしく食べ続けよう!自宅でもできる簡単トレーニング」

2

講師：指宿医療センター 言語聴覚士 百武 理子



私は今回、「おいしく食べ続けよう!自宅でもできる簡単トレーニング」と題して、嚥下のリハビリテーションや嚥下の筋力トレーニングに関して発表致しました。嚥下の機序について説明を行い、いくつかの嚥下筋力トレーニングを皆様と一緒に楽しく運動できればと思い、準備を行いました。

また、「誰にでも食べられない状況に陥ることがある。でもすぐに食べられないと諦めるのではなく、どうすれば食べられるのかの工夫を考えていきたい」「現在特に食事に支障がなくても将来のために今から食べることにについて考え、備えていくことが大事」というメッセージをしっかりと伝えたいと思っていました。

当日は、想像以上に市民の皆様にお集まり頂き、大変驚きました。講演中も、うなずきながら傾聴頂いたり、トレーニングにも積極的に参加頂いたり、大変あたたかな空気の中で発表ができたように思います。普段の業務ではご入院の方と接する時間が長く、その方の障害像に目が向きがちですが、病院の外には市民の皆様の生活があり、ひとりひとりがご自分の健康に対し、高い意識を持っておられると実感しました。

今後は、地域の皆様のニーズに応えられるリハビリテーションも積極的に行っていきたいと思います。貴重な機会を頂き、ありがとうございました。



講演 3 「今日から実践!スムーズな嚥下と栄養アップのためのひと工夫」

3

講師：指宿医療センター 管理栄養士 安藤 より子



第8回市民公開講座にて、「今日から実践!スムーズな嚥下と栄養アップのためのひと工夫」というテーマで発表を行いました。日々の業務の中で、嚥む力・飲み込む力が低下した患者さんに接する機会も多く、低栄養に陥るリスクが高いと感じておりました。今回の発表をするにあたり、入院中だけでなく在宅においても、少しの工夫で食べやすく、効率よく栄養を摂るためにどうしたらよいかを改めて考えました。レシピを考案し、栄養管理室内で試作検討を行い、調理の工夫やレシピについて指宿市民の方へ発信できたのではないかと思います。

また、平田先生をはじめ他の先生方の講演を聴講し、それぞれの職種の専門性を活かし地域の皆様の健康への一助となるようにこれからも連携していきたいと思っております。食に対する「想い」を理解し患者さんだけでなく、自身の家族とも向き合っていこうという刺激になりました。



講演 4 「家族の「食べたい!」を支えよう」

4

講師：指宿医療センター 医療安全管理係長 看護師長 國生 道代



当院では、平成27年より指宿市歯科医師会の協力を得て、入院患者さんの口腔ケアラウンドを行い、口から食べることに對する地域の医療・介護職を交えた研修会を実施してきました。コロナ禍で活動の範囲は縮小していますが、現在も当院のスタッフが継続して取り組んでいるところです。

超高齢社会において、指宿市の老年人口は全国平均の26%を大きく上回り、2020年にはすでに39%を超えました。2025年には41.1%になることが予測され、要介護者の増加により介護を担うマンパワー不足が深刻化してきます。その問題を解決するための対策は急務であり、参加して頂いたみなさんの力が必要であることをお伝えさせて頂きました。

今回「家族の食べたいを支えよう」というテーマで、お話しさせて頂きました。口から食べることの正しい知識に関する①脳への影響、②環境と姿勢、③食べ物を置く位置、④介助する人の注意点、⑤スプーンやコップの選択について、そして「もしも大切な人が食べられなくなったら…」その時がきてからではなく、大切なご家族と話し合うきっかけになれば良いと思います。そして、その思いを私たち医療従事者と共有させて頂き、共に考えていくことが必要であることをお伝えしました。

今回、指宿市民のみなさまの前でお話させて頂く機会を頂き、私たち医療従事者も知識・技術の向上に努め、もっと口から食べる支援について真摯に向き合っていかなければならないと強く感じました。今後も、指宿市でいつまでも健康(健口)で幸せに口から食べ続けられるように「食べられてよかったですね」という喜びを共有できるよう、支えられる一員でありたいと思っております。



小児外科について

小児外科医師 連 利博



小児外科医の守備範囲は広く、頸部や、胸部（心臓以外の気管や肺や食道）、腹部すなわち肝胆道系から胃腸、直腸肛門まで含む消化器系、および腹壁です。成人の外科医と際立って異なるところは三つあり、1. 新生児、未熟児の外科、2. 化学療法がよく効く小児悪性腫瘍の集学的チーム医療としての外科、3. 小児外傷、この3つの分野をカバーしていることです。

その他、小児外科医は気道異物などの気道疾患や重症心身障がい児の在宅医療にも深くかかわっています。胃瘻造設された場合の胃瘻の管理や気管切開カニューレの管理をしております。

当科の特長

実際の日常の小児外科臨床で扱う頻度の高い疾患としては、単径ヘルニア、移動性精巣や停留精巣、臍ヘルニア、乳児痔瘻、胸郭異常（漏斗胸）、体表の小腫瘍などで、緊急性のあるものとしては虫垂炎や腸閉塞などの急性腹症、消化管出血があります。また、小児外科医が扱っている小児内科的な病態として腹痛と便秘があり、以下に説明いたします。

診療内容

便秘：成人や高齢者の便秘とは異なり、小児の便秘には特徴があります。3、4歳に多いのですが、その始まりはもう少し低年齢であることが多く、その原因は心理的なものです。一度でも固いうんちで痛みを伴い排便に苦勞すると、便意があっても我慢してしまい、そうすると便意は消え、その繰り返して悪循環に陥り慢性便秘となります。小児科医はまずは直腸肛門奇形（鎖肛）やヒルシュスプルング病（腸壁の神経が欠損）などの排便障害を来す基礎疾患がないかということを見極めようと小児外科医に紹介されます。これは重要なことで、まず小児外科医はこれらを否定します。除外されると、習慣性の便秘ということになり、治療は繊維の多い食事と薬の使用です。宿便になっている場合には特殊な浣腸で一度完全に排便しなければなりません。近年、便秘治療薬にも選択肢が増えましたので適切な治療薬の選択と母親のケアを組み合わせ、個々の患児に合わせた対応が必要です。さらに、排便に対するトラウマが消えたあと、薬をやめていくには繊維の多い食事が重要となり、この食事指導は重要です。

腹痛：ウイルス性胃腸炎が最も多い。虫垂炎の初期症状としての腹痛は診断が遅れると腹膜炎となりますから重要で、これをまずは鑑別します。このような急性の疾患が否定され、慢性の腹痛が6か月も続くようならば、機能性ディスペプシアと呼ばれる一種の自律神経失調を考慮しなければなりません。小学生高学年から中学生の年齢層で多く、この数年心理的要素を背景とした腹痛や腹部膨満感などが増えています。コロナ禍、学校生活がいろいろと制限され、子どもたちの自由が奪われていることから増えているのかもしれませんが。また、不登校に伴っていることが最近多くみられます。症状を緩和する適切な薬の選択と、心理的サポートが必要となります。

外来診療日

外来診療時間は第1、3火曜日、午前・午後（9：30～3：00）となりますが、セカンドオピニオンを含め気軽にご連絡、ご紹介ください。

第76回 国立病院総合医学会が開催されました

『Branding, Presence, Marketing ～選ばれるためには～』をテーマとして、2022年10月7日(金)・8日(土)に第76回国立病院総合医学会が開催されました。



「第76回 国立病院総合医学会の参加報告」

研究検査科 副臨床検査技師長 佐々木 道太郎

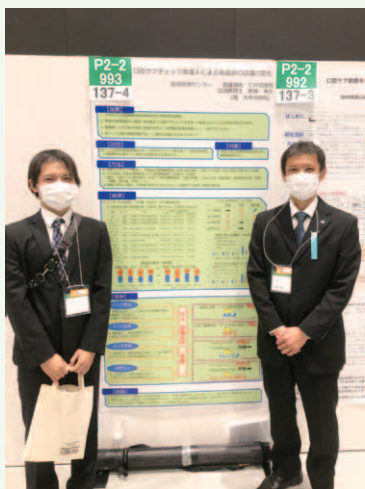
10月に熊本県で開催された国立病院総合医学会に口演発表で参加しました。今回の学会は3年ぶりに現地での対面式で行われ、メイン会場の熊本城ホールの他に2つのサブ会場があり、どの会場も多くの参加者で賑わっていました。コロナ禍のため参加に不安がありましたが、受付での体温チェック、消毒の徹底など感染対策はしっかりと講じてあるようでした。私が発表した演題は「左室前乳頭筋に発生した乳頭状線維弾性腫の一例」です。乳頭状線維弾性腫とは心臓内に発生する良性腫瘍のことで、エコー検査で偶然発見されることが多く、稀な疾患と言われています。6月に演題登録と抄録作成を済ませ、9月中にスライド作成を終えるというスケジュール



を進めて行きましたが、納得のいくスライドがなかなか完成せず、時間がかかってしまいました。そのため学会当日までの3か月は余裕が無く、あっという間だった印象です。ここ数年は、コロナの影響でほとんどの学会や研修会がウェブ上でのやり取りでしたので久しぶりの人前での発表は緊張感があって刺激を受けました。感染が収束しない状況がまだまだ続いています。次回も現地開催となることを願っています。

「第76回国立病院総合医学会に参加して」

教育担当師長 仁井田 康男



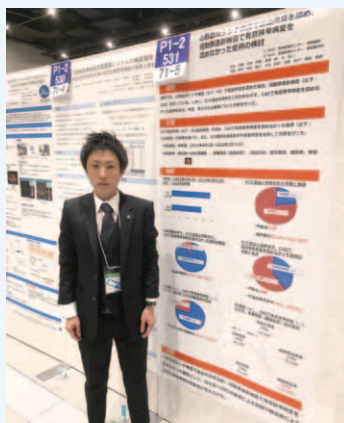
10月7・8日、熊本城ホールをメイン会場に開催された第76回国立病院総合医学会に参加しました。口腔ケアに関しての看護師の認識の変化を年代ごとに比較した研究を発表しました。若手から中堅に差しかかる4～5年目への働きかけが効果的であることがわかりました。他の年代への働きかけの工夫と口腔ケアの手技の統一が今後の課題です。

3年ぶりの現地開催であり、事前の健康観察や検温、手指消毒など感染予防対策が徹底される中、研究発表やシンポジウムなど、どの会場も多くの参加者で活気にあふれていました。

少しずつ復興される熊本城を眺めながら、コロナ禍からも徐々に抜け出しつつあるのを感じた2日間でした。

「第 76 回国立病院総合医学会に参加して」

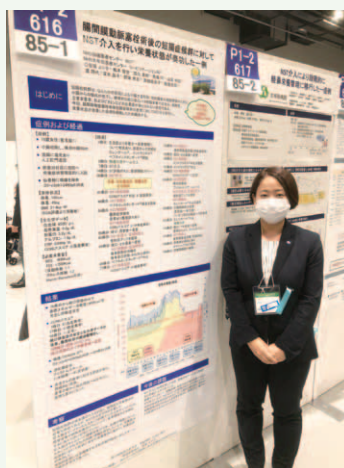
放射線科 RI 検査主任 永谷 大輔



第 76 回国立病院総合医学会で「心筋血流シンチ検査で虚血所見を認め、冠動脈造影検査で有意狭窄病変を認めなかった症例の検討」についてポスターにて発表を行いました。発表で学んだことや課題を今後の業務に活かしていきたいと思ひます。ご協力をいただいた循環器内科及び放射線科の皆様方に感謝申し上げます。

「第 76 回国立病院総合医学会に参加して」

管理栄養士 安藤 より子



10月7日～8日の日程で第76回国立病院総合医学会に参加してきました。今回NSTの症例である「腸間膜動脈塞栓術後の短腸症候群に対してNST介入を行い栄養状態が奏効した一例」としてポスターセッションにて発表を行いました。当院では、一時中断しておりましたNST加算を2021年9月より再開し、介入件数も増加してきました。しかし、介入方法や経過などの振り返りを行う機会が少なく、今回栄養状態の奏効した症例を振り返ることで、チーム医療の効果と今後の課題が見えてきました。

久しぶりの集合型学会に参加し、チーム医療だけでなく多施設・多職種の取り組みについて聴講し、学ぶことの多い学会となりました。日常の業務に少しでも活かしていきたいと思ひます。

「第 76 回国立病院総合医学会に参加して」

給与係 片岡 壮大



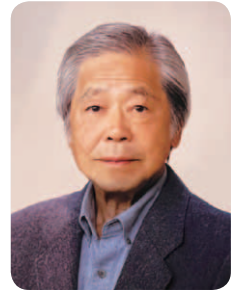
国立病院総合医学会で「医業未収金債権回収業者(弁護士法人)の切り替えによる効果について」のテーマでポスター発表の機会をいただきました。多くの方に自身の発表を傾聴して頂きとても貴重な経験となりました。また、学会で全国の病院の取り組みを聞き勉強させて頂きました。

今後もチーム医療の一員として患者様の支援に努めて参ります。



田舎医者の流儀(192)・・・札幌

先週札幌に行ってきた。3年ぶりに孫(10歳)に会うためであったが、東京在住の娘夫婦も来てくれて受賞のお祝いもしてもらった。コロナがまた流行りだしたので一抹の不安はあったが2泊3日の旅行を無事に終え帰り着いた。



人の多さにびっくりした。福岡まで新幹線で行き、福岡から新千歳空港行の便に乗った。福岡空港に余裕をもって到着したが出発ゲートに入るのに長蛇の列でびっくりした。飛行機も満席であった。空港まで息子嫁と孫が来てくれて車で札幌に向かった。道中、山には雪が見られたが道端は未だ雪は見られなかった。樹々は紅葉も過ぎて落葉し、白い幹が目立った。

夜、息子夫婦に孫、娘夫婦、それに我々3家族で食事をした。娘は4年前結婚したがそれからコロナが流行りだし会うこともままならなかった。一緒に食事するのは結婚式以来であった。仲良く暮らしているようなので何よりである。孫はスキーが好きで得意らしく、シーズンの到来を楽しみにしている。お勉強も大事だが、体を鍛えることはもっと大事。スキーで体を丈夫になってくれたら嬉しい。体も大きくなりおばあちゃんより大きくなっていた。今度会うときは僕より大きくなっていそうだ。

翌日、息子嫁のお父さんが今年亡くなっていたので、墓参りに連れて行ってもらった。札幌を一望する高台に眠っておられた。嫁の話ではこの周辺は熊が出没するそうだ。そこから、小樽の方に降り立った。小樽も人人で賑わっていた、コロナが流行しているというのに大層な人出であった。お昼、てんぷらの店で食事して札幌に帰り着いた。

夜はお肉を食べようと息子夫婦、孫と食事した。娘夫婦はジンギスカンが食べたいとのことで別行動となった。こちらは糖尿を気にしながら食事をしたが、おいしいものが多かったので少々食べすぎたかな。帰ったら調節しなくちゃ。

帰って、家の鍵が見当たらない事に気づいた。どこを探しても見当たらない。帰り荷物を宅急便で送ったので、そこに入れ込んだかなと思って待った。幸い荷物が届いたらそこに紛れ込んでいてひと騒動は決着した。年取ると嫌だね、こんなことが起こるから。

来月で79歳になる。残り人生も少なくなってきた。今回みたいな事が出来るのもそう多くないだろう。孫が小学5年生だから、大学に行くまではしぶとく生きて、見定めたいものだ。

指宿医療センターHP菜の花通信

<https://ibusuki.hosp.go.jp/topic/nanohana-tweet/>



外来診療担当医一覧

令和5年1月1日現在

診療科等		月	火	水	木	金	備考
循環器内科	午前	鹿島	吉重	鹿島山	大川井畑	鹿島重	
総合診療内科	午前	大井花田(血液内科)	花田	中村	花田	中村	
消化器内科	午前	羽田	(休診)	門松	千堂	羽田	
肝臓内科	午前		大重		大重		
小児科	午前	中野	中野	田邊	中野	田邊	午前診療：8時30分～11時 午後診療：14時～16時 予防接種 (毎週月曜・火曜・木曜：要予約) 受付14時～14時30分 一ヶ月検診 (月・木) 受付13時 (要予約) 3～4・7～8・9～11ヶ月・1歳児健診 (火曜) 受付13時45分 (要予約)
	午後	外来	荒武	関	荒武	関	
		予防接種 健診	中野	中野	中野	中野	
外科	午前	(手術日)	宮蘭小田原	宮蘭小田原	(手術日)	(手術日)	
泌尿器科	午前	黒島	(手術日)	黒島	黒島(再診のみ)	黒島	
腎臓内科	午前			潤田		久保	17番診察室にて診察します。10:00～(要予約)
産婦人科	午前	鮫島島	濱島東	(手術日)	鮫島東	鮫島島	1ヶ月健診 (月・木曜日：要予約) 2週間健診 (月・火・木・金：要予約) 午後診療受付 (水・金曜日以外) 13時30分～15時 (再診のみ) 母乳外来 (毎週火・木曜日) 母親学級 (毎月第2・3水曜日)
	午後	鮫島島	濱島東 助産師 母乳外来	助産師 母親学級	鮫島東 助産師 母乳外来	(手術日)	
眼科	午前	尾山辻下	尾山辻下	尾山辻下	尾山辻下	尾山辻下	月曜・火曜・水曜は午後から手術のため受付は午前10時までとなります。
	午後	(手術日)	(手術日)	(手術日)	(特殊外来)	(特殊外来)	木曜・金曜の午後は特殊外来(視野検査、レーザー治療、造影検査、硝子体注射など)
専門外来	午前	呼吸器内科	小児外科		脳神経外科		呼吸器内科 毎週月曜日 予約制 呼吸器外科 毎月第2・4木曜日 (14時～16時) 予約制 小児循環器 毎週月・火・木曜日 (14時・15時・16時) 要予約 ※第1・3火は16時のみ 小児外科 毎月第1・3火曜日 (9時45分～14時30分) 要予約 もの忘れ外来 第2・第4水曜日 (14時～16時) 要予約 脳神経外科 毎週木曜日 (9時～16時)
	午後	呼吸器内科 小児循環器	小児外科 小児循環器	もの忘れ 外来	小児循環器 呼吸器外科 脳神経外科		
内視鏡検査		千堂松	羽田堂松	羽田堂	羽田井	赤崎堂松	第2・第4木曜日 藤井
整形外科	午前			織田		織田	水曜日・金曜日 9時～17時 受付：(織田先生) 9時～11時・14時～15時30分 鹿大医師(水)・(金) 午後 受付：13時～15時30分
	午後			織田・鹿大医師		織田・鹿大医師	



JRの場合

JR指宿枕崎線に乗車頂き、指宿駅で下車して下さい。
指宿駅から山川行バス(鹿児島交通)にて「指宿医療センター前バス停」(約10分)で下車して下さい。
当院の正面玄関前に停車します。

バスの場合

JR鹿児島中央駅前(鹿児島市)から山川橋行バス(鹿児島交通)にて「指宿医療センター前バス停」で下車して下さい。当院の正面玄関前に停車します。

自動車の場合

鹿児島市からは、産業道路を進んで国道226号線を山川方面へ進んで下さい。
指宿医療センターは国道沿いにあります。

- 受付時間 午前8時20分～午前11時00分
- 診療時間 午前8時30分～午後17時15分
- 休診日 土・日・祝祭日・年末年始 ※急患の方は随時受付いたします。
- 電話番号 0993-22-2231

新型コロナウイルス感染症流行に伴い、
入院患者様への面会を禁止とさせていただきます。
※お問い合わせは、受付時間内です。

発行：独立行政法人国立病院機構 指宿医療センター
〒891-0498 鹿児島県指宿市十二町4145番地
TEL：0993-22-2231 (代表)
FAX：0993-22-2772 (地域医療連携室)
URL：https://ibusuki.hosp.go.jp
印刷：株式会社陽文社